

新刊の予告

大学評価学会が編集・発行するシリーズ「大学評価を考える」第6巻が、3月9日から開催される第10回大会（龍谷大学）にあわせて、発刊の予定です。

乞う、ご期待！

発行：大学評価学会／発売：晃洋書房／予価：1,400円＋税



シリーズ「大学評価を考える」第6巻

高等教育における「無償教育の漸進的導入」—授業料半額化への日韓の動向と連帯—

目次

まえがき

- 「受益者負担原則」から「漸進的無償化原則」へ (重本直利)
[資料] 国際人権A規約第13条 (原文・日本語訳)

第I部 「無償教育の漸進的導入」と大学評価のあり方

1. 大学評価学会における「無償教育の漸進的導入」研究
—その歩みと今後の課題— (渡部昭男)
2. 〈対談〉いよいよ始まる大学の第三者評価制度
—大学評価学会の設立を語る— (田中昌人・石崎祥之)
3. 〈記録〉国際人権A規約第13条問題特別委員会の取り組みについて (細川 孝)
4. 「無償教育の漸進的導入」を阻む競争的資金配分の見直しを (日永龍彦)

第II部 「無償教育の漸進的導入」に向けた日韓の連帯

1. 高等教育における「無償教育の漸進的導入」に係る韓国の動向 (渡部・日永・望月)
2. 韓国における大学登録金半額化の市民運動 (安 珍傑)
3. 韓国高等教育の公共性の水準と登録費負担軽減策 (朴 巨用)
4. 日韓シンポジウムにおける質疑応答
[コラム] 京都府学生自治会連合の取り組み (寺下建二郎)
5. 韓国の新聞記事に見る大学授業料(登録金)問題 (日永)

あとがき

(細川)